

独居高齢者の救急時における 情報確保のための取組みについて ～地域住民との協働作業による新たな試み～

札幌市豊平区介護予防センター東月寒・福住

○吉岡 秀典 古賀 美貴子

【はじめに】

札幌市豊平区介護予防センター東月寒・福住では、単身高齢者の方が急に具合が悪くなったときに、駆けつけた救急隊員や地域の福祉の町推進センターの推進員が迅速に連絡や対応ができるよう、「99カード」を東月寒地区福祉のまち推進センターと協働で作成したので、その内容や活用方法について報告する。

介護予防センターの形態、業務については以下に示すとおりである。

それでは、札幌市独自の福祉のまち推進センターについては、以下に示すとおりである。

東月寒地区の福祉のまち推進員は、独居高齢者の安否確認など、日常生活に対する支援を民生委員と協力して行なっている。その中で、コミュニケーションをとることや体調不良に対する心配の声が聴かれそれに対しての対策について検討することになった。

なにかできないか？考えられないか？

- ・マンネリ化 ⇒ マンネリを良しとするには？
- ・話が續かない ⇒ 話が續くためには？
- ・体調不良 ⇒ 日々の体調把握をするには？

そういえば、……札幌訪問看護ステーション協議会で平成13年に作成した「安心カード」を、同じ平成13年に札幌市介護支援専門員連絡協議会豊平支部で作成した「安心シート」を……

住民の住民による住民のためのツール！

毎週、ひとつのブロックの定例会議に出席して、実際に独居高齢者の方と話をする推進員の方の話を聞き運営会議でまとめながら、最終的には、消防の救急隊の意見も反映させ、「99カード」が完成する。（図1）

新聞、インターネットの各種HP、テレビでも取り上げられた。

平成20年12月7日豊平消防署の救急隊の方に「99カード」の受け渡し式を行い、実際の施行日となった。豊平区では、救急隊の対応が迅速にいかない場合、清田区・白石区・厚別区の順で依頼していくルールになっているため、この「99カード」は、札幌市4区で理解されていることになる。

【考 察】

今回の「99カード」への取組みは、以下に繋がると考える。

- ・東月寒地区福祉のまち推進センター推進員による、対象者の健康状態の把握と円滑なコミュニケーションの手段として、見守り訪問時の99カードの確認と交換のより一層の浸透。
- ・地域全体への浸透と積極的な活用への支援。
- ・他域への紹介と活用への働きかけ。（全国地域包括支援センター研究大会にて発表）
- ・かかりつけ医師の「99カード」に対する理解と支援の必要性。（北海道プライマリ・ケア学会にて発表）
- ・かかりつけ薬局の「99カード」に対する理解と支援の必要性。（日本薬剤師会学術大会にて発表）
- ・今後への期待として

「救急車が来て10分近くもその場に止まっているのはなぜか？」との推進員からの質問に救急隊は、「その人の情報がないと駄目だ」と答えました。「99カード」は、「万一の場合の貴重な情報源」として、全国的にも希有で例のない手段と住民の協力体制にて活用されるもので、今後の浸透と積極的利用を期待したいと考える。